



第78回日本産科婦人科学会学術講演会

## イブニングセミナー3

裏面もご覧ください

# バルトリン腺嚢胞・膿瘍の診断と治療 ～日米の臨床について～

日時

2026年 5月15日（金） 16:45 - 17:45

場所

第6会場（札幌プリンスホテル（国際館パミール）3F 大沼・洞爺）  
〒060-8615 札幌市中央区南3条西12丁目 TEL: 011-241-1111

座長

京 哲先生

ポネレクリニック大阪 院長

同時通訳  
付き

講演 1

杉山 太郎先生

田園調布オリーブレディースクリニック 院長

「再発例から学ぶバルトリン腺嚢胞・膿瘍治療戦略」

講演 2

Dr. Maria Teresa Tam, MD, FACOG, FACS

セントフランシス病院（米国 イリノイ州）

低侵襲婦人科手術部門 ディレクター ロボット手術部門 部長

Director of Minimally Invasive Gynecologic Surgery and

Chair of Robotic Surgery- Prime Healthcare/ Saint Francis Hospital

「Practical Management of Bartholin Cyst or Abscess in the US」

\*当日、先着順でのご入場となります

# バルトリン腺嚢胞・膿瘍の診断と治療 ～日米の臨床について～

バルトリン腺嚢胞については「産婦人科診療ガイドライン婦人科外来編2023」にその取り扱いが示されていますが、解説の中で欧米では再発率を抑えるために本邦とは別の治療法が行われていることが記載されています。

本セミナーでは、再発予防は外来管理の観点から、日米の臨床についてご講演いただくとともに、Dr. Tamからは日常臨床で標準的に行われている手技をご紹介します。

## ◆ 演者プロフィール ◆

### 講演 1

田園調布オリーブレディースクリニック 院長

## 杉山 太郎先生



#### 【経歴】

- 2001年 信州大学医学部卒業
- 2001年 東海大学医学部附属病院 臨床研修医
- 2003年 東海大学医学部附属病院産婦人科 臨床助手
- 2008年 東海大学医学部専門診療学系産婦人科 助教  
婦人科癌における糖鎖発現に関する研究に従事
- 2010年 東海大学医学部附属八王子病院へ就任
- 2014年 博士（医学）取得 東海大学医学研究科
- 2015年 東海大学医学部専門診療学系産婦人科 講師
- 2017年 医療法人社団善方会 田園調布オリーブレディースクリニック院長 就任  
東海大学医学部客員講師

### 講演 2

セントフランシス病院（米国 イリノイ州）  
低侵襲婦人科手術部門 ディレクター ロボット手術部門 部長

## Dr. Maria Teresa Tam, MD, FACOG, FACS

Director of Minimally Invasive Gynecologic Surgery and  
Chair of Robotic Surgery- Prime Healthcare/ Saint Francis Hospital

#### 【経歴】

- 1994年 University of Health Sciences / The Chicago Medical School 卒業
- 1994年 Saint Joseph Hospital 産婦人科 臨床研修医
- 1999年 Saint Joseph Hospital 産婦人科へ就任  
Illinois Masonic Hospital 産婦人科へ就任
- 2000年 Northwestern University, Feinberg School of Medicine 産婦人科 助教
- 2012年 Penn State Milton S. Hershey Medical Center 低侵襲婦人科手術（MIGS）フェローシップ  
Saint Joseph Hospital 研究部門ディレクター
- 2013年 医療法人 All for Women Healthcare, SC（イリノイ州 シカゴ）開設
- 2014年 Saint Francis Hospital 低侵襲婦人科手術部門長／ロボット手術部門 部長  
Rush University Medical Center 産婦人科 准教授
- 2023年 Saint Joseph Hospital 低侵襲婦人科手術（MIGS）教育担当医

2013年、医療法人 All for Women Healthcare, SCを開設。オフィスギネコロジストとして日常診療を重視し、予防医療、ホルモン管理、月経異常、更年期症状など幅広い女性の健康課題に対応。非手術的治療の選択肢も含めた最適な医療を提供している。

一方で、低侵襲婦人科手術（MIGS）を専門とし、ロボット手術および腹腔鏡手術を中心に豊富な執刀経験を有する。高度な外科的技術と安全性への取り組みが評価され、2022年にSurgical Review Corporation（SRC）よりMaster Surgeon of Excellence in Minimally Invasive Gynecologyの認定を取得。研究分野においても、子宮筋腫、子宮鏡手術、腹腔鏡手術に関する論文発表を行うなど、臨床と学術の両面で貢献している。

卓越した外科的専門性と、患者に寄り添うきめ細かな診療姿勢の両立が高く評価され、Castle Connolly社による独自調査および厳格な審査を経て、米国で診療に従事する医師の上位約7%のみに与えられる「Top Doctor」に、2023年、2024年、2025年と連続して選出されている。